

J R 東海 労 幹 関 西 地 「 申 」 第 4 号
2 0 1 8 年 8 月 2 2 日

東海旅客鉄道株式会社
新幹線鉄道事業本部関西支社
支社長 松 寄 道 洋 殿

JR東海労働組合新幹線関西地方本部
執行委員長 畑 野 浩 孝

「総合研修センターにおける腸管出血性大腸菌O157検出」に関する申し入れ

8月18日、静岡県とJ R 東海によると、同県三島市のJ R 東海総合研修センターの食堂で1日に昼食を取った同社社員ら男女48人（21～54歳）が腹痛や下痢などの食中毒症状を訴え、うち14人から腸管出血性大腸菌O157を検出したと発表した。そのうちの5人が入院したが、いずれも快方に向かっているとのことである。

また、研修で訪れていた社員とセンターで働いていた職員が、研修中に発症したり、研修後に静岡、愛知、大阪など10都府県で症状が出たりした。保健所は18日から当分の間、食堂の営業禁止を命じている。

しかし、今回の事態は、8月1日の昼食で腹痛や下痢などの食中毒が出ているにも関わらず、18日、県が発表するまで2週間以上が経過しており腸管出血性大腸菌O157の感染が懸念されていたにも関わらず、これまで現場で働く社員に明らかにしなかったことは、組合として到底看過できない問題であると考えます。

よって、下記の通り申し入れるので早急に労使協議の場を設定すること。

記

1. J R 東海総合研修センターの食堂で昼食を取った48人の社員が腹痛や下痢などの食中毒症状を訴え、うち14人から腸管出血性大腸菌O157を検出した事態について、会社の見解を明らかにすること。また、腸管出血性大腸菌O157の感染経路は把握できたのか、明らかにすること。
2. 8月1日に昼食を取った同社社員ら男女48人（21～54歳）が腹痛や下痢などの食中毒症状を訴えたとのことであるが、当日の研修センターの対応を時系列で明らかにすること。
3. 研修で訪れていた社員とセンターで働いていた職員が、研修中に発症したり、研修後に静岡、愛知、大阪など10都府県で症状が出たりしたとのことであるが、10都府県の全てを明らかにすること。

4. 8月1日の昼食で腹痛や下痢などの食中毒症状が出ているにも関わらず、発表が18日に至った原因を明らかにすること。
5. 8月1日の昼食で腹痛や下痢などの食中毒症状が出た後、静岡県への報告を5W1Hで明らかにすること。
6. うち5人の社員が入院したとのことであるが、全員の症状及び何日入院したのか明らかにすること。
7. うち5人の社員が入院したとのことであるが、入院中の勤務扱いと入院費等の取り扱いを明らかにすること。
8. 静岡、愛知、大阪など10都府県の社員が研修後に食中毒症状を訴えたとのことであるが、それ以降各現場で腸管出血性大腸菌O157の感染は拡大していないのか明らかにすること。また、感染があれば、その全てを明らかにすること。
9. 18日以降、保健所から研修センターの食堂が営業禁止に指定されているが、禁止期間はいつまでなのか明らかにすること。
10. 18日以降、研修で訪れている社員と研修センターで働いている職員の食事対応はどのように行っているのか明らかにすること。

以上